

聖書：Ⅱテモテ2：1

タイトル：「恵みによって強くなる」

---

テモテへの手紙は第一と第二がある。どちらも使徒パウロによって記されたものである。宛先である「テモテ」という人物は、使徒の働き 16：1 に、母親がユダヤ人で、父親がギリシヤ人であったことが記されている。パウロは、この時テモテを連れて一緒に伝道旅行（第二）に出かけて行った。テモテと一緒に伝道旅行に連れて行くことで、彼に直接、伝道の仕方やまた教会での牧会にかかわるすべてのことを直接指導することが出来たのである。そうして信仰が成長したテモテは、エペソの教会を牧会するようになったのである。テモテの手紙第一 1：3-4 にはこのように記されている。

「1:3 私がマケドニヤに出発するとき、あなたにお願いしたように、あなたは、エペソにずっととどまっていて、ある人たちが違った教えを説いたり、 1:4 果てしのない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現をもたらすものではありません。」

テモテの牧会するエペソの教会には、これまで使徒たちが教えてきたキリストの福音とは違った教えをする人々が現れていたのである。そのためテモテの牧会は困難であった。またテモテは、「年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。・・・(4:12)」と記されていることから、若かったことが解る。教会には、自分より年上の方々もたくさんいただろうから、若い牧師であるテモテが相手にされないということもあったであろう。そうした様々なことも含め、困難な状況がエペソの教会にはあったのである。そのために、信仰の育ての親であるパウロは、テモテの牧会を励ますためにこの手紙を記したのである。

さて、もう少しエペソの教会の背景を考えたい。

2テモテ 1:15 にはこのように記されている。

「あなたの知っているとおりの、アジアにいる人々はみな、私を離れて行きました。その中には、フゲロとヘルモゲネがいます。」

エペソとはアジア地域にあるのだが、ここだけを読めば、このアジア地域への伝道は失敗したかのように見える。しかし実際は非常に祝福された伝道の御業があったのである。使徒の働き 19：8-11 にこのように記されている。

「19:8 それから、パウロは会堂に入って、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、彼らを説得しようと努めた。

19:9 しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。

10 これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。

19:11 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。」

パウロによってこのアジア地域の人々（エペソを含む）は皆が御言葉を聞いたのである。それほどこの地域での伝道が祝福されたことが解る。それにもかかわらず2テモテ 1:15 にあるように、アジアの人々の中には信仰から離れていく人々が非常に多くなっていったのである。なぜ、そのようなことが起こったのか。それは先の1テモ 1：3-4 に記されていたように、違った教えを信じる者がいたからであるが、

これは単に違った宗教を信じているということだけではなく、彼らの中では、イエス・キリストとい人物はもはやこの地上には居ない者であり、また目には見えない者、すなわち信じるに値しない者という思いがあったのである。彼らはより具体的なこと、ビジネス、金銭、品物と、目に見える事、あるいは自分が計画し、実行できること、また自分の考えの中で納められることのみを信じて行くという、現実主義、あるいは実物主義的な考えに支配されていたのである。

これは極めて今日的な課題でもある。

パウロはそうしたエペソを含むアジア地域の現状を知り、「皆が、離れていった。」と記したのである。

使徒の働き 19 章に記されているエペソにあるアルテミス神殿と銀細工人の話はまさにそうである。

こうしたことを受けて、本日の箇所へとつながっているのである。

2テモテ 2：1 「そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。」

この「恵み」という言葉は、ギリシャ語でカリスである。「慈しみ」という意味がある。すなわち「キリスト・イエスにある恵みによって」とは、「キリスト・イエスの慈しみによって」と言い換えることができる。このキリスト・イエスの慈しみの究極は、十字架である。十字架は日夜私達を「死」の恐怖に閉じ込めている罪という根源から解放された証である。マタイ 7：8－12にはこのように記されている。

「7:8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

7:9 あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。

7:10 また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

7:11 してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さないことがあります。」

イエスは私達のために十字架で命をも投げ出してくださったお方である。ゆえに神は、もし私達が神を求めていくなら、必ずすべての必要を満たし、備え、導いてくださるお方であることが解る。パウロは、この「キリスト・イエスの恵み（慈しみ）によって強くなりなさい。」と記している。これは、命令の言葉である。ある一つの提案として「したほうが良いと思う。」ということではない。「しなさい！」という命令である。パウロはテモテに、また私達にこの世の現実主義、また実物主義的な生き方ではなく、「キリスト・イエスにある恵み（慈しみ）によって強くなる。」という、真に信仰に生きることの大切さを教えているのである。このことを一心に見つめて行く者でありたい。